

平成 29 年度 事業報告書
(平成 29 年 9 月から平成 30 年 8 月まで)

特定非営利活動法人 亘理いちごっこ
(以下団体敬称略させていただきました)

1. 事業概要

平成 29 年度は①コミュニティ・レストラン事業 (サロン活動、製造を含む)、②子どもサポート事業の 2 事業に加え、4 月 1 日より③家庭的保育事業所【わたり家庭保育園いちごっこ】を開園した。この 3 事業を柱に活動を展開してきた。

震災から 8 年目を迎え、『地域において真に必要とされていることは何か』という問を常に持ち活動を行ってきた。震災対応の補助助成金が減っていく中でその問いに答えを見出しつつ、必要とされている事業をどのように継続可能にしていくかが大きな課題となっている。

① <コミュニティレストラン事業>

健康的な食の重要性が少しずつではありますが広まり、独居老人、高齢世帯、障害者福祉施設、事業所などからの食の提供希望が増えつつある。食事をつくることが出来ない方たちなど配達しなければならないところに、<年賀寄附金配分事業>助成をいただきながら届けることが出来ている。しかしこの助成がなくなっては続けることが出来ない状況が続いています。「一般事業所などからのオーダーを増やし、困難者に手厚くする」という NPO ならではの模索を繰り返す毎日であった。

サロン活動においては、<年賀寄附金配分事業>助成、<宮城県 NPO 等による絆力を活かした震災復興支援事業>補助等による「おらほの食卓」「サロンのサークル化」などに取り組むことが出来た。多地域から参加する学生たちによるサロンの自主的な取り組みをサポートしてきたことも大きな成果と言える。

② <亘理こどもサポート事業>

立ち上げ初年度から続けてきた【寺子屋いちごっこ】。継続できる体制づくりという観点より、週 4 回実施から週 2 回実施へと移行期となった。<ベネッセこども基金><東日本子どもサポート基金>助成をいただき、学生たちとの連携をより深めながら、子どもたちの基礎学力向上、居場所づくりを行うことが出来た。

通常の寺子屋活動に加え、<ベネッセこども基金>、<大和証券福祉財団>、<東日本子どもサポート基金>助成によって、悲願であった【寺子屋いちごっこ】に通って行くことが出来ないこどもたちの居場所づくりを積極的に行ってきた。亘理町からのヒアリングを中心に、地域にとって何が必要であるかを検討。学童保育要素の強い活動を夏休みを中心に行った。次年度へ続く活動としていくための模索期間と捉えている。

③ <わたり家庭保育園いちごっこ>事業

年度始まってすぐ立上げに追われる日々が続いた。人材確保、書類作り、保育園立上げ改修工事、研修の実施などなど、4 月 2 日の入園の集いに向け、スタッフ一丸となって取り組みました。人材に恵まれ、2 人の常勤スタッフ、1 3 人の非常勤スタッフが連携を取りながら、5 人の 3 歳未満児をいつくしみ育てる日々を送っている。日本政策金融公庫からの立ち上げ資金の活用、亘理町認可保育園としていただいたことに加え、<JTNP0 応援プロジェクト>による助成によって、備品・設備を整え、スタッフの人材育成に注力することが出来た。この家庭保育を軸としながら、地域の子育て世代のサポートに徐々に力を入れ始めたところである。その一つとして、<赤い羽根共同募金・絵本助成>により、充実した図書の購入をすることが出来た。家庭保育園や寺子屋いちごっこにて使用するだけでなく、近隣の家庭保育所や、子育て親子にも貸し出しを行い、本をきっかけとした交流を広げ深める準備を進めている。

④ 音楽による地域交流活動

<コミュニティレストラン事業>の一環として今年度はスタートしました。震災後、たくさんの演奏家たちが被災地を訪れてくださった。が、時の経過や災害の全国多発により急激に減ってきています。他力による交流活動に頼るのではなく、自分たちで継続可能な活動をと、<宮城県芸術等による心の復興事業>、<年賀寄附金配分事業>の助成をいただきスタートさせました。地域で、広域な子どもたちを中心とした音楽の育成及びサロン活動を始めるきっかけづくりをしている。

当方の立ち上げからのスローガンである<地域コミュニティは大きな家族>を地道な道のりではあるが、推し進めてきた2017年度であった。

以降、事業ごとに詳細報告をする。

2. コミュニティレストラン事業

震災から7年が経過し、被災地域をはじめ復興住宅などで集会所が完備されるようになってきた。私たちの活動もそれに伴い、当方施設に集まるサロン活動から住民居住地域にて行われるサロン活動にシフトしてきている。

(1) レストラン事業

- ① 発足当初から推し進めている【健康的な食事】への理解を緩やかではあるが広めることが出来てきた。復興住宅や団地に居住する高齢世帯をはじめとする独居老人などによる利用をはじめとして、障害者就労支援事業所においては生活支援の一環として、当方のお弁当を教材の一つとして活用していただいている。
- ② 被災地域の老人会、復興住宅での集まりなどに当方のお弁当を利用いただいている。
- ③ 震災後ばらばらになってしまった方々等が、当方施設・コミュニティレストラン【散歩道】に集まり体操をしたり、食を通して歓談する姿は立ち上げ当初から今もなお続いている。
※ 平成29年度、30年度 【年賀寄附金配分事業】助成対象事業
- ④ 雇用の推進、地場製品の発信等を目的として、イベントに出向き、はらこ飯等の販売を行ってきた。当方の活動発信のツールともなっている。

(2) サロン事業

- ① 【おらほの食卓】を定期的に開催。震災後独居世帯が増え、夕ご飯の孤食を地域の食卓へしていこうと実施した。復興住宅集会所等にて月1回夕食会を実施。コンサートなどを並行して行うこともあった。
- ② 【楽しく茶のみ】という地域ボランティアスタッフを中心とするお茶会を、被災した2地区において月1~2回実施。震災前はここに住んでいたんだよと集まる人も仲間入りし、交流が続いている。
- ③ そば打ちサロンの実施……地域住民が主体となり当方がサポートする形で実施。
- ④ お茶のみヨガサロン……(a)浜吉田北集会所 (b)山元町浅生原集会所 (c)上浜街道復興住宅集会所の3ヶ所で実施。(a)、(b)地区参加者がほぼ同じになってきたことから、2018年4月以降は前述2ヶ所で実施。(a)においては自主運営に近い状態となり、当方は若干のサポートを行うのみとなっている。2019年4月からは自主運営が進む見込みである。
- ⑤ 多地区からのボランティア協力を得て、コンサートサロンを実施。

※ 平成 29 年度 【年賀寄附金配分事業】（平成 30 年 4～9 月継続）

【宮城県 NPO 等の絆力による震災復興支援事業】

【麒麟福祉財団】

※ 平成 30 年度 【JTNPO 応援プロジェクト】（平成 30 年 4 月～9 月）

助成対象事業

（3）文化事業

① [アートキッチン] 開催 【年賀寄附金配分事業】助成

② [楽器体験コンサート] 開催 同上助成

③ [荒浜に恋する野点] 開催 【宮城県文化芸術の力による心の復興支援助成金】助成

[うまれる] 上映会開催 “

[ライブペインティングコンサート] 実施……於・復興住宅 2 か所 “

（4）地場産品等発信事業

地域住民が作ったものを販売しながら、被災地の現状を発信している。また若干ではあるが、従事者の生業の一つとしている。

① 特産であるいちごを使った<ジェラート>及び<クラッシュいちご>を継続して製造販売する。緩やかにファンを増やしつつある。

② これまで製造方法の確立を試みてきた瓶詰商品の販売を今年度からスタートさせた。[株式会社ジオングラフィック] の協力をいただきカタログチラシを製作し広報するとともに、亘理山元商工会との連携を図り、【亘理ブランド】として発信。

地場果実の熟した味そのものを活かした<いちごジャム>・<りんごコンポート>・<いちじくコンポート>、そして従来品である<ガトーショコラ>などのケーキ類は、[CTVC 東京ボランティアセンター] をはじめとして大学、高校、企業（三菱電機株式会社東北支社、ソフトバンク株式会社東日本カスタマーコミュニケーションセンター）などで販売を広げていただいている。

③ <手づくりグッズ販売>もまた大学高校等のバザーにて販売していただいている。が、震災からの年月の経過に伴い、売上げは 2014 年あたりの 1/40 までに低下する。販売は落ちているが、震災後の苦しい時を<手づくり>というきっかけでつながった仲間たちが今も集まり、全国の他被災地に向けて応援グッズの製作などにも励んでいる。

④ <仕入販売グッズ>T シャツ、エプロン販売もまた手づくりグッズ同様落ち込んでいるが、地域内からも希望の声も出るようになってきた。

（5）被災地研修受入事業

① 宇都宮海星女子中学高等学校（サロン活動）、浦和明の星高等学校（サロン、こどもサポート活動）、聖心女子大学（サロン、こどもサポート、レストラン掃除ボランティアの学生たちを受け入れ、被災地研修と学生たちのノウハウを活かしたサロン活動を同時に行ってきた。

コミュニティレストラン事業だけではなく亘理こどもサポート事業においても学生たちの活躍が見られた。詳細は亘理こどもサポート事業報告にて後述する。

3. 亙理こどもサポート事業

立ち上げ当初から継続して実施してきた学習会「寺子屋いちごっこ」を主軸に事業を展開した。今年度初の試みとして、長期休暇（夏休み）において学童に近い場所とする「サマスク」の運営を行った。長期休暇中の学童利用の需要も高いため、今後継続的な事業として展開を図っていきたい。

(1) 学習会「寺子屋いちごっこ(以下、寺子屋)」

会期中合計 131 回（上期 98 回、下期 33 回）開催し、約 30 名が通い、学習に励んだ。

① 【上期（2017 年 9 月～2018 年 3 月）】

受け入れ人数を増やすため、こどもたちは週 2 回、曜日ごとに 2 グループに分けて実施（週 4 回教室開放）した。小中学生計 29 名（小学生 10 名、中学生 19 名）の登録があった。小学生の部では、国語と算数を軸に学力定着に努めた。また、勉強へとシフトする導入部分には“都道府県チャレンジ”などの“楽しく勉強できる”教材を取り入れた。中学生の部では英語・数学を軸に、実施する 2 タームのうち 1 タームを講義形式にて基礎力の定着を図った。学力に大きな変化はないが、“放っておいたら（寺子屋に通っていないなかったら）勉強せずに学力が落ちているだろう”という生徒もおり、その生徒たちの学力が下がることなく現状を保っていることは大きな成果であると考え。受験へ向けた学習も強化し、寺子屋に通う中学 3 年生の生徒 6 名全員が県内公立高校への進学が決定した。

【下期（2018 年 4 月～2018 年 8 月）】

上期に実施した 2 グループ制から、4 月からは 1 グループ制へ転換し、週 2 回の開催として寺子屋の新年度をスタートさせた。小中学生の登録数は計 21 名（小学生 2 名、中学生 19 名、8 月 31 日時点）となっている。昨年度小学 6 年生であった生徒 6 名が中学生となり、そのまま中学生の部へスライドする形となり、小学生の人数が上期に比べ減少しているが、中学生の部の生徒数は現在ほぼ最大受入可能人数に達している。小学生の部では、昨年に引き続き国語・算数を軸に学習を進めている。また、寺子屋の一番の魅力である「大学生との交流」を通じた社会性の向上の取り組みとして、終了 10 分間交流の時間を設けている。中学生の部では、上期と同様で英語・数学を軸に、2 タームのうち 1 タームはテキストを用いた学校での既習内容の復習を、もう 1 タームは各自で持って来た課題に対するフォローを行なっている。通学する学校やクラスにより、進度は異なるが、それぞれのペースに合わせて学習を進めた。

【実施概要】

上期：毎週月・火・木・金 小学生 18:00～18:50、中学生 19:00～20:50

下期：毎週月・木 小学生 18:00～18:50、中学生 19:00～20:50

【実施回数】

上期	合計	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	98	17	16	16	13	12	14	10
下期	合計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月		
	33	6	8	8	7	4		

【世帯内訳】

世帯内訳	合計 (世帯/名)	一般 (世帯/名)	被災 (世帯/名)	ひとり親 (世帯/名)	特例 (世帯/名)
上期(18.3.31 時点)	21/24	11/12	6/8	6/6	2/2
下期(18.8.31 時点)	19/21	7/7	7/9	3/3	2/2

② 地域交流イベント

下記の日程にて4回実施した。

日程	イベント名
2017年10月28日	ハロウィンパーティ
2017年12月22日	クリスマスパーティ
2018年3月24日	ありがとうの会
2018年6月23日	Welcome Party!

③ 東北大学学内サークル「サークルいちごっこ」

今年度も東北大学学内サークル「サークルいちごっこ」のメンバーに支えられて開催できた。現在も50名を超える学生が交代で日々の当寺子屋に訪れ、児童・生徒らの学習面や精神的なサポートをしてきている。それだけに留まらず、学生一人ひとりが児童・生徒らのロールモデルとしての役割も果たし、将来の進路選択の幅をも広げる役割を果たすとともに、学生たちにとっても、こどもや関わる大人たちとどのように意思疎通を図っていくか、行事をどう組み立てていくかなど、学校では学ぶことが難しい多世代間コミュニティの実践の場となっている。

(2) 高校受験対策「土曜塾」の実施

- ① 中学3年生を対象に行った“高校受験対策「土曜塾」”は生徒数が思うように伸びず、11月より、前年度からサポートをいただいている〔まなびの森〕が主催する「土曜ゼミ」へ移行した。また、冬期講習や入試直前の指導などの面で〔まなびの森〕にサポートをいただいた。

(3) 長期休暇の取り組み

① スタプレ

昨年度に引き続き、今年度も夏期休暇中に勉強会兼交流会「スタプレ」を町内集会所にて開催。3日間の開催を予定していたが、台風の影響で2日目は中止となった。昨年度以上に小学生の参加が多く、外や中で大学生との交流がさかんに行われた。スタプレでは前述した「サークルいちごっこ」のメンバーに加え、被災地研修で訪れた県外の高校生や大学生のメンバーとともに実施した。参加する学生たちの学びの場ともなっている。

【実施概要】

実施日時 8月8日 15:00～18:30, 10日 10:00～16:00(9日は台風のため中止)

参加人数 述べ29名

② サマスク

亘理町内では学童の待機児童が多く、また長期休暇中の学童もニーズが高い。このような状況を解消するべく、亘理町こども未来課からの助言をいただきながら、初の試みとして、「サマスク」を夏期休暇中週2回計7日間開催した(うち1日は台風のため中止)。サマスクは学童のように、小学生を対象に日中こどもたちを当方で預かるというものである。周知の遅れや、初の試みであったことから利用人数は少なかったが、新しい取り組みとして今後改善し、継続的な活動としていきたい。

【実施概要】

実施日 7月24日、26日、31日、8月2日、7日、21日、23日(8月9日は台風のため中止)

実施時間 9:30～15:00

利用者数 述べ21名

③ ポニーキャンプ

今期で6度目となる「ポニーキャンプ in 亶理」を開催。前回は上回る過去最多19名の小学生が参加し、ポニーのお世話や乗馬体験などを通じて、自然・動物・ともだちへの思いやりや自発性（自分で考え行動する）、協調性を育む機会となった。

【実施概要】

開催日 7月21日～23日

参加人数 19名

ボランティア参加 延10名

企画運営 (公財) ハーモニイセンター

(4) その他の取り組み

① わたりスマイルデイキャンプ

ポニーキャンプを中心に、長期にわたり支援を続けてきている有志メンバー「Rainbow」からの打診を受け、11月23日に「わたりスマイルデイキャンプ」を開催。おかし作りや実験教室、工作教室などを展開し、町内の小学生を中心に山元町からの参加も含め、およそ80名のこどもたちが集まる大イベントとなった。

【開催概要】

開催日時 2017年11月23日 10:00～17:00

参加人数 80名

ボランティア参加 15名

② みやぎチャレンジプロジェクト

赤い羽根共同募金会が主催する社会課題解決「みやぎチャレンジプロジェクト」助成事業に参画。このプロジェクトは社会課題を解決する必要性を広く一般にアピールしながら、赤い羽根共同募金とともに寄付の呼び掛けを行い、共同募金会を通じて、活動資金として助成されるものである。本プロジェクトに「わたりこどもサポート事業」として寄付を呼びかけ、多くの皆様から寄付をいただいた。ご寄付をいただいたみなさまに厚く御礼申し上げます。

③ 三菱電機様よりご寄付をいただきました

みやぎチャレンジプロジェクトでのご縁にて三菱電機様の「三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金」により、テレビをご寄贈いただいた。

(5) 今期の活動に関する助成

① ベネッセこども基金 「災害地の子どもの学びや育ちの支援活動助成」

亶理こどもサポート事業

② 赤い羽根共同募金会 「みやぎチャレンジプロジェクト」助成

亶理こどもサポート事業

③ 東日本復興支援財団 「東北復興子ども支援事業」助成

地域力を活かした亶理こどもサポートプロジェクト

④ 大和証券福祉財団 「ボランティア活動助成」

4. 家庭的保育事業〈わたり家庭保育園いちごっこ〉

被災地において子どもサポート事業を立ち上げ当初から行ってきた。震災当時未満児であった子どもたちが小学校に上がり、落ち着いて授業に取り組むことが出来ない、乱暴的になってしまうなどの声が届く。またそのころ高校生、20歳前後だった子どもたちが親となってきている。震災によってその両親の応援をもらえず子育ての孤立化も進む。そのような中で、継続的に子どもたちを、子育て世代をサポートしていくことが出来ないか模索が続いた。その中で町との協議の中、【家庭的保育事業所】を立ち上げることとなった。

この保育園に集まる子どもたちをいつくしみ、また地域の子どもたちも一緒に育っていくことが出来るような仕組みに取り組んでいく。

2017年度、当法人が担って行く事業のこれからの大きな柱としていくべく立ち上げた。

〔善悪の判断が出来る子ども〕、〔社会性を培う〕、そして〔愛のある子ども〕を育てていこうとスタッフ一丸となって取り組んでいる。以下に今年度の主な内容を挙げる。

2016年度（2017年夏） 立上準備スタート

2017年10月 亘理町審査

主となる保育士、ボランティアスタッフ等と本格的準備作業を進める
順次、保育・給食調理・総務スタッフ募集をかける

12月 園児募集（亘理町子ども未来課）

2018年1月 改修工事スタート

2月 対象児5名決定

スタッフ総勢15名でスタート 随時スタッフ研修実施

3月 入園説明会開催

「亘理保育所」、「家庭保育園よちよち」のご協力をいただき、保育及び調理実地研修、本番シミュレーションを繰返し実施

4月 入園の集い 保育スタート

救命救急研修実施（スタッフ対象 亘理警察署より救命士2名指導）

5月 定期ミーティング実施

6月 家庭的保育事業者初期研修（宮城県）に11名参加（毎金曜日全4日）

人形劇を当保育園にて初めて開催（協力 笑顔バス）

7月 動物ポニーとのふれあい

8月 亘理警察署より指導をいただき、避難訓練〈不審者対策研修〉実施

絵本の充実整備

※JTNP0プロジェクト助成……主に立ち上げ準備、研修関係、消耗備品助成

亘理町改修補助金……保育事業所改修費

亘理町給付金……運営経費

共同募金会 絵本助成……絵本の整備を進める（亘理子どもサポート事業においても活用）

5. 総括

これまでは地域のニーズを聴き取りながら、あの事業この事業と進めてきた7年間であった。震災からの時の経過とともに、法人自体の骨組みをきっちり固めなければならない時にきている。継続可能なNPO事業を進めながら、いずれ補助助成金を確保できなくなることや、継続可能な地域力を培っていくために、サロン活動においても地域ボランティアの協力を得るよう心掛けてきた。また今までは提供するサロン活動であったものから、自主運営していくサークル活動へと移行していくことが出来るようにサポートを行ってきた。少しずつではあるが、その形が整ってきたこの1年間であった。

新たな試みである〔保育事業〕。スタッフに恵まれ、また子どもたちをいつくしむご家庭に恵まれ、順調なスタートを切ることが出来た。核となるスタッフに頼り切るところがあった。これからは研修を積み重ね、統一した考えの下、それぞれが主体性を持った保育を行っていくことが出来るよう進めていく。

〔亘理子どもサポート事業〕においては、学童保育、子どもたちの居場所づくりを新しい試みの中推し進めてきた。今後も行政と連携していくことが出来る事業の立ち上げへとつなげていくことが出来るよう検討及びヒアリングを続けていく。

〔コミュニティレストラン事業〕として様々なサロン活動を展開してきた。今後、自分たちで組み立てることが出来る交流活動をどのように組んでいったらいいか検討を重ねてきた。発足当初から子どもたちを見守り育てる事業を行ってきた。子どもも大人も参加できる交流活動をと、今年度の終わりから芸術による<子育て>・<交流活動>を行うべく〔陽だまり弦楽アカデミー〕の立ち上げの緒についた。子どもたちが芸術を学び、その学びを地域に還元していく。そしてそこに世代を超えた地域を越えた交流を育てていく。そのような事業に発展させるべく第一歩を踏み出した。

これらの活動をスタッフ一丸となって進めてきた。が、常勤スタッフ2名では何とも回し切れていないのが現状である。NPOだからこそ夢を語ることが出来る事業体でありたいと考える。そのためのスタッフの充実が急務となっている。

地域ボランティアスタッフ、東北大学<サークルいちごっこ>をはじめとする学生ボランティアスタッフ、そしてそれぞれの事業スタッフが一緒に力を出し合い事業を進めてくることが出来た。人のつながりが何よりもの当法人の力となっていることを強く感じた1年であった。

そして、東日本大震災からもう少しで丸8年を迎えようとする今も、ご助言にはじまりたくさんのご支援、励ましをいただき感謝の一言である。お陰さまで、地域内外からの声に応え、自分たちの力の限り1年を全うできた。各事業運営や資金調達においても、全体統括においても課題は多い。みんなのエネルギーを一つにしてこれからも課題解決に向け一歩を踏み出していく。